

# \*ピースウィンズ・ショップから\*

## お歳暮・クリスマスギフトのご案内

年末まで残すところあとわずか。今年もギフトシーズンがやってきました。お世話になった方へ、フェアトレードギフトセットはいかがでしょうか。

通年販売のピースコーヒーだけのセットに加え、毎年ご好評いただいている「おかし屋ぱれっと」さんのクッキーの入ったコーヒーセット、「ピープルツリー」さんのフェアトレードチョコが入ったコーヒーセット、北海道チョコレートに東ティモールピースコーヒーが乗ったコーヒー豆チョコギフトなど各種ご用意しました。「お歳暮」「お年賀」「祝」など色々な「のし」にも対応可能でご相談ください。秋冬限定の各種チョコレートも販売開始です。皆様からのご注文をスタッフ一同お待ちしております。

## 今年もカレンダーが完成しました

PWJスタッフが各支援地で撮影した子どもたちの笑顔が満載の『PWJオリジナルカレンダー2013 Smiles of The World』(税込1,050円)を今年も販売します。

送料が・・・とおっしゃる方に朗報！ カレンダー2部まででしたらゆうメール便にて160円でお届け可能です。子どもたちの元気な声が聞こえてきそうなオリジナルカレンダー、ご自宅用はもちろん、ギフトにもご利用ください。  
\*売切れ次第終了とさせていただきますのでお早めにどうぞ。



ご注文は、<http://www.peace-winds.org/shop/>

お電話TEL:03-5213-4073  
またはFAX:03-3556-5772でも受け付けております。  
※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

## 12月19日(水)、東京目黒にて東北被災地の子どもたちによるミュージカルを開催

PWJは東北被災3県の子どもたちによるノンフィクションミュージカル「CARE WAVE AID vol.5」を、パートナー団体のNPO法人 CARE-WAVEと共同で実施します。3・11を経験した子どもたちが、「日本の平和」「世界の平和」のために大人たちへのメッセージを伝えます。チケット絶賛販売中です。

「CARE WAVE AID vol.5」公式HP

[www.peace-winds.org/musical.html](http://www.peace-winds.org/musical.html)

## 年末の大掃除！ 不要な本、CD、DVDを寄付しませんか？

不要になった本やCDなどをお送り頂くとブックオフコーポレーションのご協力で、買取金がそのままPWJに寄付されます。PWJは頂いたご寄付を、国内外の緊急支援・復興開発支援活動に活用させて頂きます。 送料は無料です。WEBか電話でお申込みください。

TEL:0120-252-176 (通話料無料)

ブックキフ 検索

## 年賀はがき寄付キャンペーン！

お手元にある年賀書き損じ、未使用はがきが、PWJの活動への寄付になります。個人や学校、職場ではがき収集のよびかけをぜひお願い致します。お申込みは不要です。ハガキをPWJ事務所まで直接お送りください。

送り先 T102-0074 東京都千代田区九段南4-7-16  
市ヶ谷KTビルI 5F

ピースウィンズ・ジャパン「ハガキフ係り」

※受領証ご入用の際は明記ください。

## PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

### 【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（東日本大震災の場合はその旨を）を明記してください。

### 【銀行口座】

#### ● PWJの活動全般へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

#### ● PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 桜新町支店

口座番号：普通 6723184

口座名義：特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

※転居などで住所の変更はお知らせください。

- ・日本経済新聞・産経新聞・岐阜新聞に被災地の子どもたちによるミュージカル「CARE WAVE AID」が掲載
  - ・NHK Eテレ「ティーンズプロジェクトフレ☆フレ」にミュージカル「CARE WAVE AID」に出演する子どもたちが紹介
  - ・読売新聞に東ティモールフェアトレードコーヒーが掲載
  - ・日本経済新聞に「南三陸アフタースクール」が掲載
  - ・東京新聞に「南三陸アフタースクール」が掲載
- メディア掲載報告

支援のプロを、  
世界の現場へ



娘を抱いて避難するシリア人女性



自由シリア軍の兵士たち。いまなお、内戦は続いている。



「テントも食べ物もいらない。ただ、祖国シリアに戻りたい。」ここはイラク北部のドミズ難民キャンプ。乾いた赤茶色の土の上に数百のテントが立ち並ぶ。内戦が続くシリアから命からがら避難してきた人びとは、いつ実現するかわからない祖国への帰還を切望している。

内戦が激化するシリアでは、これまで一般市民を含め3万7千人を超える死者が出ており、生命の危険から避難を余儀なくされた多くの人びとが周辺国に逃れている。PWJが設立当初より活動するイラクでも、シリアからの難民が増え続けている。ドミズ難民キャンプは、イラク北部の都市ドホークから10kmほど南西の位置にあり、2012年10月の時点で3,759家族、16,316人のシリア難民が生活している。急増する難民への対応は困難をきわめており、キャンプ内のテント周辺は雨が降るとひどくぬかるむような状況で、衛生設備も整っていないため、伝染病の蔓延も懸念されている。食糧の配給は、小麦粉、食用油など、基本的なものに限られている。さらに、厳しい冬が目前に迫っており、気温が氷点下にまで冷え込む寒さは、難民たち、なかでも体力のない高齢者や、子どもたちの生命を脅かすことから、早急な対策が必要となっている。

PWJは、こうした状況を受け、イラクでのシリア難民に対する支援を開始。約3500世帯に対し、灯油や補助食糧（トマトペースト、紅茶など）、衛生用品（石鹼、消毒剤など）を配給する。難民キャンプで暮らすシリアの人びとが、冬の間少しでも快適に過ごせるように、迅速に活動を進めている。

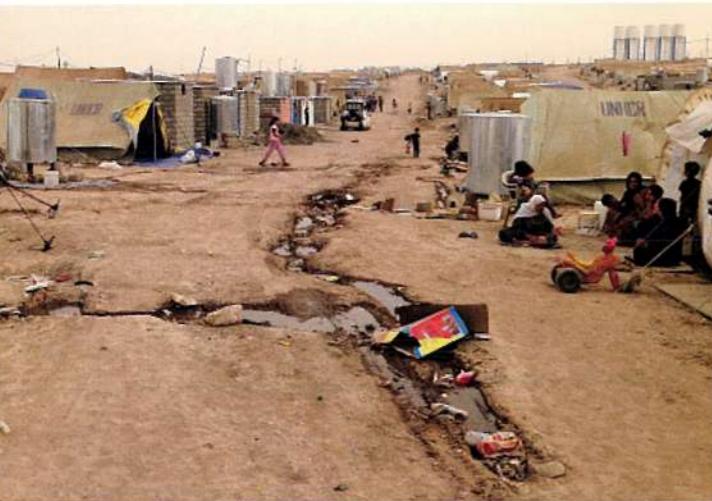
シリア難民緊急支援  
— 厳冬に向けた対策が急務 —

## 同じ苦境を体験した仲間として—イラク現地代表より—

現在PWJイラク現地代表を務めるカワ・サミ・サブリも、実は自身が過去に難民となった経験があり、彼の親戚や友人も難民キャンプでの生活を体験しています。そんなカワだからこそ、今回のシリア難民支援には特に思い入れがあります。

1991年の湾岸戦争終結後、当時のフセイン政権の弾圧により多くのクルド人難民が発生した際、私も難民となりました。また、PWJに入る前は、国連職員として、難民キャンプでの支援活動を行っていました。「難民である」ということは、家もなく、希望もなく、いつもの平安な暮らしを奪われ、絶望、緊張、怒り、そして心の痛みを抱えている状態です。シリア難民の中には、目の前で自分の子どもを殺されたり、性的暴行や拷問を受けた人びとも多くいます。難民の苦しみを理解した上で、彼らの苦悩を分かち合い、声に耳を傾け、細心の注意を払って支援することで、少しでも彼らの苦しみを癒したいと思っています。シリアの人びとが温かい冬を迎えることができるよう、どうか皆様のご支援をよろしくお願ひします。

(イラク現地代表 カワ・サミ・サブリ)



©Reuters/Ali Jarekji, courtesy of the Thomson Reuters Foundation - AlertNet



子どもたちを避難するシリア難民  
ドミス難民キャンプの様子

## イラクでは小学校の改築も実施

PWJは1996年の設立以来、イラク北部のクルド人自治区(以下、自治区)を中心に、教育、医療、水と衛生、社会福祉など、多岐にわたる支援を行ってきました。近年は、教育環境の整備に力を入れています。イラク戦争終結後、自治区の治安が安定し、人口が急増しており、地方でも学校の教室不足が深刻な問題になっています。また、自治区と中央政府との境界線上にある「係争地域」では、長年にわたり行政サービスが行き渡らず、老朽化した校舎が多くみられます。土壁・土屋根の教室では、天井落下の危険と隣り合わせで生徒が授業を受けています。PWJは現地政府の要請を受け、2009年から今年3月までに小学校16校の改築を実施し、約7,000名の生徒が新しい安全な教室で勉強できるようになりました。今年5月からは、自治区3郡の小学校7校の改築を行っており、来年5月の完了を目指しています。

BEFORE



AFTER



子どもたちの笑顔

### ジェルガザヴィ村ムスタファ校長先生からのメッセージ

この小学校が建てられたのは1982年ですが、それから30年近く経った結果、窓やドア、床が老朽化し、壁には亀裂が入り、電気配線も故障し、トイレも壊れていきました。1教室で約50人の子どもが勉強しており、病気が蔓延しやすい状況のため、教室の増築が急務となっていました。今回の修復増築のご支援により、学習環境が改善し、教室の数が増え、子どもたちはより勉強に集中できるでしょう。新しい教室で勉強できることを楽しみにしている子どもたちは「いつ完成するんですか」と毎日私に聞いてきます。PWJの支援に対し、心より感謝しています。



## 地域防災力の強化に、東日本大震災の経験を活かす



東日本大震災から1年8か月、被災地では復旧復興への取り組みが進む一方で、次の震災に備える動きも出てきました。PWJは、地域の防災をテーマに、大震災の経験を検証する取り組みを地域の自治組織とともに進めています。

岩手県陸前高田市の広田半島は海に突き出る形をしているため、津波によって道路が寸断され、震災直後は周囲から完全に孤立しました。水道や電気、ガスが止まった中で、住民は外部からの援助が到着するまでお互いに助け合って苦難を乗り越えました。

この経験を振り返るため、10月20日に地域の自主防災会と勉強会を開きました。子どもや高齢者といった災害弱者への支援や、備蓄すべきものについて、活発に意見が出されました。自主防災会は、震災直後の避難方法など、一人一人の経験談を集めた記録を作ることを計画しています。

PWJは、地域の防災力を強化するため、地域間での交流の場を設けるなど、防災の取り組みを進め、またそのつながりをさらに広げていきたいと考えています。

### 『勉強会に参加した住民の声』

- ・同じ広田町の中でも、山や沿岸地域など、地形や事情が集落ごとに異なるが、それぞれの異なる活動内容について知ることができ、とても参考になった。
- ・震災前は自主防災会が発足したばかりで、あまり活動ができていなかった。この勉強会をきっかけに、本格的な活動につなげていきたい。

## 出張レポート ニジェール食糧危機

(コミュニケーション部 山下智子)

2012年10月、西アフリカ・ニジェールの支援現場を訪りました。眼下に広がる乾いた大地。すでに陽は高く、気温は40度でした。

サヘル地域を襲った干ばつによる食糧危機に対応して、PWJは2012年8月から、ティラベリ州フィレンゲ郡において、キャッシュ・フォー・ワークとよばれる支援事業を行っています。この事業の対象に選ばれた人々は、緑化を目指した土地整備の作業に携わり、労賃として現金を得ることで、必要な食糧を購入することができます。シャベルを握り、土を掘り起こす作業に従事する女性たちの姿も多く見られました。男性が農作物の収穫などで忙しい場合は、同じ世帯の女性が働いているのです。私が現場を訪れたこの日は、作業開始から20日目を迎えており、半月型に掘られた無数の溝が大地に連なる光景には圧倒される思いでした。

「村の女性たちの地位は、この数年で驚くほど大きく変わりました」と話すのは、現地のパートナー団体のフィレンゲ事務所長ミドウ氏。「今回、事前調査で村を訪れたとき、より積極的にキャッシュ・フォー・ワークを受け入れたいと声を上げたのは、女性たちでした。」以前は、女性は家事を優先すべきという風潮があったものの、近年は、女性の組織化を推進する政府の動きや、NGO事業に従事する経験を通じて、女性の地位に少しずつ変容が見られているようです。

その土地に生きる人びとにとっての最良の事業を選びとること。これが、干ばつや貧困という試練を乗り越えて、持続可能な新たな社会を築くために必要なことだと強く感じました。



積極的に作業をする女性たち

資金支払日、自分の番を待つ人びとで溢れる市役所

カメラに向けるとスカーフを巻きなおしてニッコリ笑ってくれました